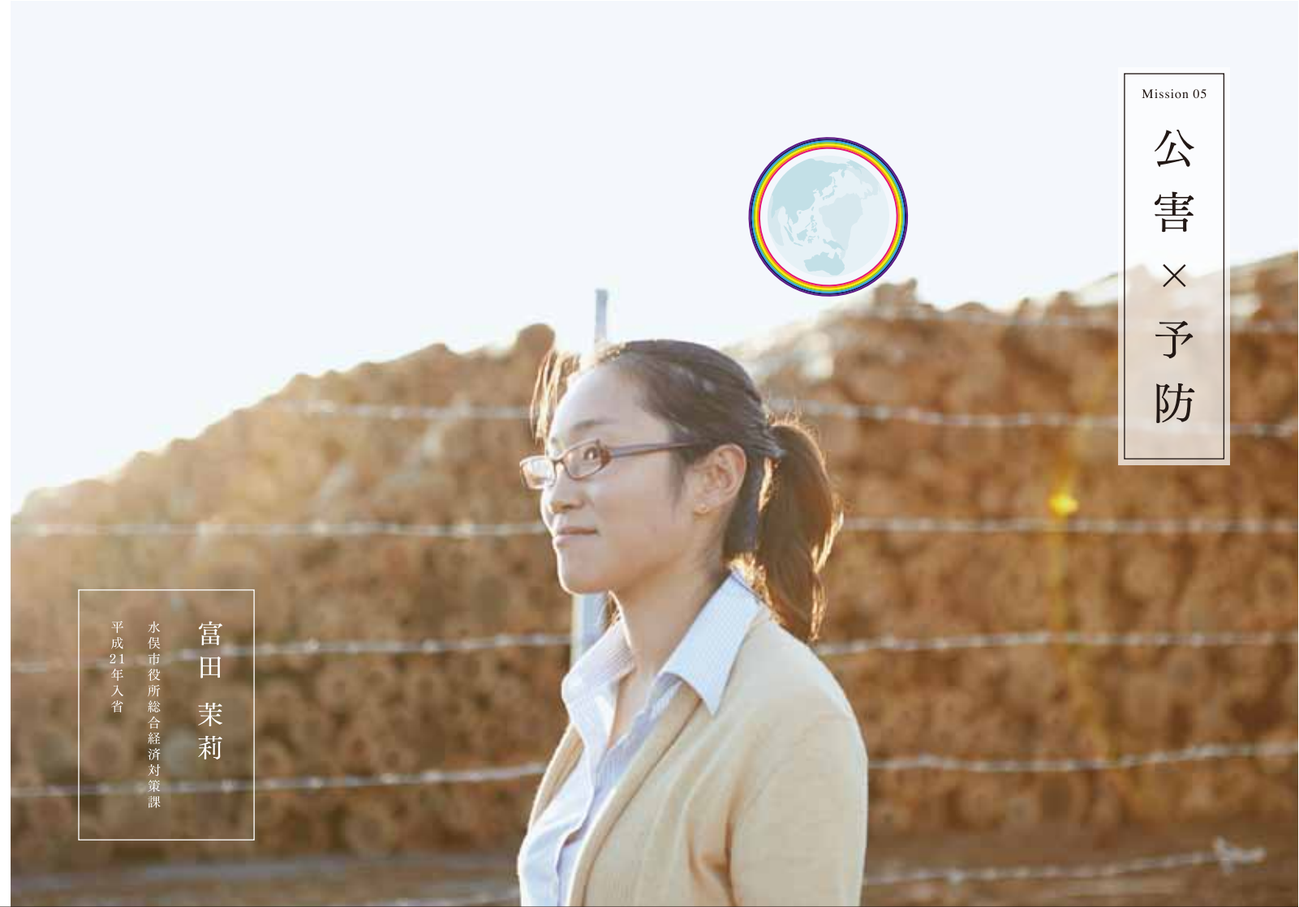
Mission 05

公害×予防



富田　茉莉

水俣市役所総合経済対策課
平成21年入省

熊本県　水俣市
Kumamoto Minamata

水俣病の教訓を活かす
～マイナスからゼロへ、ゼロからプラスへ～

水俣市は、水俣病の教訓もあり、環境に力を入れている町。市内には海もありますが、実は4分の3が山。そして山の中の水源地から川が流れ、海までつづいているという自然豊かな町です。そういう自分たちの土地のものを活かして町づくりをしたいという流れがずっとあった。そこにいろいろな要素が結合して再生可能エネルギーの町おこしをしようということになっていったんだと思います。水俣病の教訓のひとつは、高度経済成長期に経済成長を優先して公害対策を怠った結果、水俣病が発生し、半世紀以上にわたり地域社会に深刻な影響を及ぼしたことを受け、被害が起きてから対処するのではなく、予防的に一手先の環境対策を講じるということ。こうした教訓を胸に、「環境モデル都市」としての取組を進め、環境保全を積極的に進めていました。

しかしながら、人口減少や景気低迷等の社会的な問題と相まって、地域社会の疲弊が著しい状況となってきました。そこで、国としても、水俣病の解決のため、地域の再生・振興・雇用の確保、地域社会の絆の修復に関して、熊本県などの関係地方公共団体等と取り組むこととなったのです。水俣市では、市役所と専門家の先生と市内の関係者たちが集まって、テーマごとに円卓会議をおこなったのですが、「エネルギーと産業の円卓会議」で、再生可能エネルギーはビジネスになる、という話が出てきて、とことん市内の資源をうまく活用していこうという意見がまとまったのが、2011年のことでした。その当時の私は、環境省の立場で水俣市に来ていましたが、2012年の7月より水俣市役所に出向となりました。一度は地方に出たいと思っていた私は、これを絶好の機会と捉え、みなさんの気持ちを目に見えるかたちへつなげようと、動き回っているところです。

木質バイオマス発電事業で人と人をつないでいく。

再生可能エネルギービジネスの目玉に考えているのが、木質バイオマス発電所です。長期的なスパンで考えれば、小水力発電を活かそうとか、太陽光を何かしらやろうとか、そういう話もいろいろありますが、まず第一号プロジェクトとして、木質バイオマス発電所の事業に取りかかっているところです。今年は事業がちゃんと行えるかどうか調査をしています。たとえば、燃料になる木材がちゃんと集まるのか？年間に7万トンくらい必要になるので、10年20年スパンでちゃんと集まるかを確かめる必要がありますし、森林組合をはじめいろんな林業家から持って来ていただくとか、製材所であまった木材をいただくとか、新しい流通の流れをつくっていく必要があります。いままで商品価値のなかった木材を使うことができるかもしれないので、木材の採り方もたぶん仕組みを変えていくことになると思います。私たちのほうからいろいろ提案もしますが、実際に山に入るのは森林組合の方だったり林業家の方だったりするので。いっしょにテーブルを囲んでお互いに提案し合いながら話を進めていかなければなりません。一緒に飲むこともあります。そういうお付き合いは理想ですよね。

この事業を通して地域に恩返しがしたいと考えています。地域にやさしい、零細企業にもやさしい仕組みをつくりつつ、他方で安定供給のために大手から買い取る必要があるので、そのバランスをどうつくるか、どうやって公平な制度をつくるか。また、どう透明性を保つかがすごく重要です。みんなが見て株主や利益の仕組みまでがわかりやすくて納得できるものをちゃんとつくるために、いま下準備をしているところです。水俣市のみんなで事業をやっていくというのが大きくて大切なコンセプト。水俣市の企業や市内の人たちを中心にやっていく目標です。

雇用を生み、もういちど若者が帰ってくる町にする。

木質バイオマス発電所の見通しに希望を持っています。2012年度中に当面の計画づくりをして、2013年には発電所の設計や実際の作業に入っていく予定です。発電所が完成すれば、水俣市が使う電力の2〜3割、約1万世帯分くらいまかなえそうです。3年後か4年後。いまから楽しみです。自分たちで電気をつくれるようになれば、お金もできますし、雇用も生まれます。個人的には、若者が水俣に帰ってきたいと思うような町にしたい。

実は、水俣市内に「あばぁこんね」という若者町興しグループがあり、出入りさせてもらっています。「あばぁこんね」とは水俣弁で、「じゃあ、おいでよ」という意味。20代後半から30代前半が主体となり、地域を面白くしていきたいと思う若い人たちの活動拠点になっています。マルシェをしたり、いろいろな活動をしていますが、メンバーには水俣病の教訓を活かして、無農薬でお茶や甘夏を育てたりしている人もいて、あばぁこんねで商品づくりをしましょうと、動いています。こういうコミュニティビジネスの種を見つけ、応援してあげられる仕組みづくりもしたいと思っています。これからも、前向きにつながりをつくって、いい方向性を見つけていけたらうれしい。多くの命を奪っただけでなく、地域社会にも爪痕を残した水俣病。その水俣病の解決のための取組を、先進的な環境対策・地域活性化対策のモデルとして、国内外に発信できるよう、私はこれからも全力を尽くします。